

多和田 悟著「犬と話をつけるには」文春新書 2006年6月20日 刊を読む

犬は褒められるのが大好きである。

1. あなたはあなたの飼い犬を1日何回褒めますか？褒められて怒る人はまずいません。どんなに気に食わない相手でも、心から賞賛してくれればつい気を許してしまうのが人間の性です。それは犬もまったく同じです。
2. 犬を褒めるときや叱るときは「即座に」と言われます。しかし、私は「即座よりも早く」と考えます。賞罰は犬が良いこと、悪いことをしたときではなく、しようと考えたときに与えるべきなのです。なぜなら、「グッド」や「NO」は、「良くてできました」「今やったことはダメだよ」という過去形よりも、「そうだ、それでいいよ」「こうするのはダメだよ」という現在進行形の使い方のほうが、より効果的に犬に伝わるからです。
3. たとえば「シット」を教えようとしているとき、犬が自信を持てずにいたら、お尻を押して座らせながら、「グッド、グッド」と言ってやります。結果に対してではなく、行為の途中で、「それでいいんだよ」と教える方が犬には理解しやすいのです。
4. 犬が悪いことをしたときは、すでにその行為は完成してしまっています。その後で「NO」と叱っても、犬が「いけないことをした」と反省してくれる保証はありません。「何かわからないけど、ご主人は機嫌が悪い」と受け取ったら、ご主人は怒りっぽい人だ、と学習するだけかもしれません。それよりも、悪事が完成する前に阻止する方がずっと躱しやすいのです。
5. たとえばテーブルの上のお菓子を取ろうとしたら、犬が知っている「カム」や「シット」をすかさず命令します。従わないと、「NO」と言って叱ります。結果としてテーブル上のお菓子が無事であればいいのです。要は、犬が理解できる範囲で叱ることです。「テーブルの上のお菓子を取るな」と言っても犬にはわかりません。自分も知っている「カム」に従わなかったために叱られれば、犬はその意味を理解するわけです。
6. 同時に、一貫性をもたせる必要があります。盗み食いを成功させない配慮を常にすべきです。我が家の場合、飼い犬のパーティーには生まれてから一度も人間の食べ物を与えていません。今でも、食事中にパーティーが我々の食べ物を欲しがることはまったくありませんし、テーブル上の物を狙ったりすることもあります。人間の食べ物は「食べてはいけない」と学ぶと同時に、一度も食べた経験が無ければ、犬はそれを欲しがったりはしないものです。

#### [ コメント ]

犬の教育は、人間の教育にもとても参考になる。犬好きの人にも、子育て中の人にも、教育関係者にも役に立つ一冊。